

2025年度
東北公益文科大学一般選抜(B日程)問題

国語

受験番号								氏名	
------	--	--	--	--	--	--	--	----	--

受験上の注意

受験する科目を試験開始後に各自で2科目選択してください。

- ① 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いたり裏返したりしてはいけません。
- ② 机の上に置いてよいものは、受験票、筆記用具（鉛筆、シャープペンシル、消しゴム、鉛筆キャップ、鉛筆削り）、眼鏡、ハンカチ、薬、ティッシュペーパー（袋又は箱から中身だけ取り出したもの）、時計のみです。なお時計は計時機能だけのものに限りです。
- ③ 携帯電話及びスマートフォン等の電源は必ず切ってください。
- ④ 国語の問題は全部で17ページです。
- ⑤ 解答用紙は1枚です。
- ⑥ 受験番号と氏名は、問題冊子および解答用紙のそれぞれ所定の欄に必ず記入してください。
- ⑦ 問題の解答時間は2科目あわせて120分です。
- ⑧ 問題冊子の余白は下書きに用いてもかまいません。
- ⑨ 解答用紙の余白および裏面には何も書いてはいけません。
- ⑩ 問題に疑問のある場合は黙って手を挙げてください。ただし、問題の内容に関する質問については受け付けない場合があります。
- ⑪ 試験中に気分が悪くなった時やトイレに行きたくなくなった時は、手を挙げて係員の指示に従ってください。
- ⑫ 印刷に不鮮明な箇所がある場合は、黙って手を挙げてください。
- ⑬ 解答用紙は汚れても新しいものとは交換しません。そのまま提出してください。
- ⑭ 解答終了の合図で、筆記用具を置いてください。
- ⑮ 係員が答案の回収を終えるまで、席を立たないでください。
- ⑯ 問題冊子は試験終了後持ち帰ってください。

第一問 次の文章を読んで、あとの問に答えなさい。

著作権の関係上、省略します。

著作権の関係上、省略します。

著作権の関係上、省略します。

注 聖徳太子は飛鳥時代あすかの政治家。思想家。本名は厩戸王うまやとおう。
(松井智子『子どものうそ、大人の皮肉』岩波書店より)

問一 線部(イ) (ホ)のひらがなを漢字に直して書きなさい。

問二 線部(a)、(b)はそれぞれ本文中でどのような意味で用いられているか。最も適切なものを次の各群の中から、それぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

a 「逸話」

イ. 誰でも知っている話

ロ. 大げさに褒めたたえる話

ハ. ばかばかしい作り話

ニ. 昔から語り継がれてきた話

ホ. 人物の隠れた面をよく表す話

b「矛先」

イ. 方向

ロ. 強弱

ハ. 方法

ニ. 有無

ホ. 判断

問三

空欄

i

ii

に入る最も適切なものを次の各群の中から、それぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

空欄

i

イ. あるいは

ロ. つまり

ハ. しかも

ニ. たとえば

ホ. しかし

空欄

ii

イ. 客観的

ロ. 意識的

ハ. 本能的

ニ. 常識的

ホ. 義務的

問四

~~~~~  
線部（A）「同時に10人の相談者から話を聞くことがあり、驚いたことに、そのあと全員に対して的確にアドバイスをすることができたという」とあるが、「一度に何人もの話を聞く」ということに対する筆者の考え方として最も適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

イ・人間は簡単な相談であれば聖徳太子のように多くの人の話を同時に聞いて、的確なアドバイスを行うことができるが、難しい相談では情報量が人間の処理できる容量を超えてしまうため適切に対応することができなくなってしまう。

ロ・一人の話に注意を向けると他の人の話を聞くことができなくなってしまうことからわかるように、人間の認知システムでは同時に複数の人の話を聞くことはできないため、聖徳太子の逸話も事実ではないと考えられる。

ハ・人間が情報処理にかけられる労力には限りがあるため、聖徳太子のように同時に10人もの話を聞いて理解し、アドバイスすることはできないが、数人程度であれば誰でも訓練さえすればそうしたことができるようになる。

ニ・聖徳太子のように一度に10人の話を聞いて理解することは一般的には不可能だと考えられているが、情報を処理する能力には個人差があるため、そうしたことが絶対に不可能だと言いつけることはできない。ホ・他人の話を聞いて理解するためには短期記憶や作動記憶の働きが不可欠だと考えられているが、そうした認知システムの処理資源は有限であるため、ふつうの人間が聖徳太子のようなことをするのは不可能である。

## 問五

線部(B)「テレビを見ながら電話をして、同時に新しいレシピを読んで料理もする、という人もいるかもしれない」とあるが、そうしたことができるという人に対する筆者の考え方として最も適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

イ. テレビを見ながら同時に他のことを行うなどといったことは一般的に男性よりも女性のほうが得意であるが、そうしたことが得意なのは男性に比べて女性は生まれつき多くの処理資源を持っているからだ。

ロ. 一般的な人がいくつものことを同時に行うのは難しいが、そうしたことができるという人は注意の切り替えが非常にうまく、いくつものことを短時間のうちに進めることができるのではないか。

ハ. テレビを見ながら同時に他のこともできるという人は一般的な人よりも多くの処理資源を持っているのではなく、子どもの頃から訓練を重ねることで限られた処理資源をうまく使い分けることができるようになった。

ニ. いくつものことを同時に行うことはふつうの人間には不可能であるが、そうしたことができるという人は聖徳太子と同じようにふつうの人よりも高い情報処理能力を持った特別な人なのではないか。

ホ. テレビを見たり電話や料理をしたりするということは相談者の話を聞いて解決策を与えるなどといったこととは違って日常的に行っていることであるため、処理資源を使わなくても自動的にできる。

## 問六

空欄[あ]に入る最も適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

イ. そのため普通はひとつのことに集中すると他の情報は聞きとれない

ロ. そのため複雑な問題はひとつだけではなく同時にまとめて処理する

ハ. そのため処理資源の量を一時的に増やして問題を解決しようとする

ニ. そのためほとんどの人は聞きとったことをすぐにすべて忘れてしまう

ホ. そのため集中力を高めればいくつも情報を同時に聞きとることができる

## 問七

線部 (C)

「私の耳にも息子の友達の声が届いていてもおかしくなかったが、私には聞こえていなかった」とあるが、息子の友達の声が私に聞こえなかったのはなぜか。その理由として最も適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

イ. 私の息子は友達の声をよく知っていたため「カクテルパーティー効果」でそれを聞きとることができたが、私は息子の友達の声をよく知らなかったから。

ロ. 実際は私も息子の友達の声をしっかりと聞いていたが、息子の友達に興味関心がなかったため、それを聞き流してすぐに忘れてしまっていたから。

ハ. 友達の声は私の息子にとっては赤ちゃんにとつての母親の声と同じように重要な情報であったが、私にとつてはそうした情報ではなかったから。

ニ. 音にはマザリーズのように特定の年代にしか聞こえないものがあり、私の息子が聞いた声は子どもにしか聞こえない性質の音だったから。

ホ. 友達が口にしたのは私の息子の名前だったため、「カクテルパーティー効果」によつてその声に気づくことができたのは息子しかいなかったから。

## 問八

空欄 い に入る最も適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

イ. そうした情報の中には、人間として必ず身につけておかなければならないものもある

ロ. すべての人間が共通に意識せずに、ほぼ反射的に注意を向ける傾向がある情報もある

ハ. ほとんどすべての人間が重要だと考え、常に意識的に注意を向けている情報も少なくない

ニ. 日常生活を営むのに不可欠な情報として、すべての人間が共通に持っている情報もある

ホ. 多くの人々が不要だとして注意を向けない情報の中にも、重要な働きをするものがある



問九

本文には次の一文が抜けている。その入る位置として最も適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

それが安全にもつながることから、幼稚園児のカバンや帽子には黄色が選ばれていると言われている。

イ.【Ⅰ】

ロ.【Ⅱ】

ハ.【Ⅲ】

ニ.【Ⅳ】

ホ.【Ⅴ】

問十

本文の内容に最もよく合致するものを次の中から選び、記号で答えなさい。

イ. 人間は一度に何人もの話を聞いて理解したり同時にいくつものことをしたりすることはできないと考えられているが、自分が持っている処理資源を意識的に増やすことによって、聖徳太子のように他人の話を聞いたりテレビを見ながら料理をしたりすることができるようになる。

ロ. 一つのことに集中すると周りで起こっていることに意識が向かなくなってしまう人間は、重要な情報を見落したり聞き逃したりしてしまうことがないように無意識のうちに認知システムを働かせて自分の周りのあらゆる情報に注意を向け、そうしたことが起こらないようにしている。

ハ. 情報を処理するための資源は無限ではなく、その容量を超えてしまうと情報をうまく処理することができなくなってしまう人間は、「カクテルパーティー効果」やマザリーズのように、さまざまな情報の中から自分にとって重要な情報を優先して処理するといったことを行っている。

ニ. 人間は自分の周囲にあるさまざまな情報に対して意識的あるいは無意識的に注意を向けているが、そうした情報の中には自分にとって重要なものとそうでないものがあるため、注意を向けた情報をその

まま受け入れるのではなく、それが本当に重要かどうかを慎重に判断することが大切である。

ホ、人間の認知システムは目立つものに注意を向けるようになっていたため、大勢の人に聞いてもらったり、自分を印象づけたいときには、マザリーズのように声のトーンをあげて大げさな話し方をしたり、真っ赤や強い黄色などの目立つ色の服装をしたりするのが効果的である。

※第一問は入試過去問題を活用

神戸国際大学 二〇二二年度 一般前期

国語改変あり

第二問 次の文章を読んで、あとの問に答えなさい。

著作権の関係上、省略します。

つかまえてしまう。そういう言い方が許されるほど、彼とこれらの古典記録とは、運命的な接触、気味のわるい親しさを持ち合っている。

叔孫豹はわが子の豎牛に看病され、ついには餓死せしめられる。死にかかった彼は、枕許に立つ、この得体の知れぬ笑いをうかべた牛男を見上げている。すると「その貌は最早人間ではなく、真黒な原始の混沌に根を生やした一個の物のように思われる。叔孫は骨の髄まで凍る思いがした。己を殺そうとする一人の男に対する恐怖ではない。むしろ、世界のきびしい悪意といった様なものへの、遡った懼れに近い」

『牛人』ではこの「懼れ」は陰險そのものの如き一牛男に象徴されている。しかし、この「懼れ」は、彼の全作品の底を流れる暗い色調をなすものである。世界のきびしい悪意に対するへりくだった「懼れ」それが彼を、これらの古代史実に吸いよせたのであり、『過去帳』二篇における見事な自己告白をさせたのであり、やがて『光と風と夢』や『弟子』『李陵』の如き長篇へとひきずって行くのである。

#### (中略)

中島の暗さは、咏嘆的、抒情的なものではない。むしろ極端に理知的で、正確なものである。

彼は小学校四年の頃、受持の教師から地球の運命についての話を聴いた。地球が冷却し人類が滅びる、怖い話である。太陽までが消えてしまうのだ。太陽が冷え、消えて、真暗な空間をただぐるぐると誰にも見られずに黒い冷たい星どもが廻っているだけになってしまう。それを考えると彼は堪らなかつた。彼には、それからいつもこの種のたまらなさがついてまわるのである。

彼は何事をも永遠と対比して考えるために、まずその無意味さを感じてしまうのである。理窟で考えるのではなく、アア、ツマラナイナアと腹の底から感じ一切の努力を抛棄してしまうのだ。自我の不可解さ、人間的存在の不安さが重なり重なって、万事を無意味な、愚劣な、一種の灰色の腹だたしい気分に追いやってしまう。(何と椎名的人物(注1)のせりふに似ていることだろう。)

彼はある時、料理屋で食事している一人の男の頸のつけねに瘤を発見する。すると、それがたまらなく彼を吸いよせ、彼にはたらきかける。その瘤は「この男の横顔や首のあたりの・赤黒く汚れて毛穴の見える皮膚とは、

著作権の関係上、省略します。

著作権の関係上、省略します。

著作権の関係上、省略します。

## 著作権の関係上、省略します。

(武田泰淳「作家の狼疾―中島敦『わが西遊記』をよむ―」『評論集滅亡について』岩波書店より)

注 一部の漢字に原文にはないルビをふっている。

注 1 椎名麟三は日本の小説家。

注 2 ドストエフスキーについて武田泰淳は、「谷崎潤一郎論」の中で次のように書いている。

「あの『罪と罰』のラスコルニコフの暗い、圧しつけるような思索、またカラマーゾフ家の兄弟の神への思慕や人生に関する論議、真理を求め、智慧におびえ、偉大なる闇黒の中を、ふるえる指先に立ちどまることのない足によって、一歩々々ふみしめて行く孤独のロシア人……」



問一 線部(1) (10)の漢字にふりがなを書きなさい。

問二 線部(A)「アナトール・フランス的、メリメ的と考えられそうな短篇」とあるが、それがどのようなものであるかについて本文中の別の箇所ですべて述べられている。文中からその箇所を抜き出して書きなさい。

問三 筆者の武田泰淳は中島敦を説明するのに、一方で彼の自我がこだわった事柄について、他方でそれと対立する事柄について述べている。次の表は双方から選んだ概念をⅠとⅡに分類したもののだが、さらに一語ずつ、A、Bに最も適した言葉をⅢの中から、それぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

|   |   |         |             |
|---|---|---------|-------------|
| Ⅱ | A | Ⅲ       |             |
|   |   | イ. 紫式部  | ロ. 人間喜劇     |
| B | A | ハ. 造物主  | ニ. いわゆる「文学」 |
|   |   | ホ. 自由意思 | ヘ. 世界の悪意    |

問四 中島敦の自我がこだわったのは、問三の分類のⅠ、Ⅱのどちらか。記号で答えなさい。

問五 悟浄が悟空的自由にあこがれたように、中島敦があこがれたのは問三の分類のⅠ、Ⅱのどちらか。記号で答えなさい。また、自分の自我にこだわることによって、それを失おうとしていることを何と表現したか。漢字二文字で答えなさい。

問六

中国古典を扱った自分の作品が、『山月記』の李徴の詩のように、第一流の作品となるにはどこか欠けていると中島敦が思ったのはなぜか。その理由を筆者の考えから百二十字以内で説明しなさい。